

まちネットワークよりい  
まちネット寄居  
私たちから発信しよう 私たちのまちづくり

さあ

# 手をつなご!

まちネット 寄居通信『さあ 手をつなご!』はみなさんの支援力がエネルギー源

# まちネットからのメッセージ

## これからのまちづくりに向けて

7月26日、寄居町長選挙に向けて一般町民有志による実行委員会主催で「町政への思いを聞く会」が開催されました。まちネット寄居は、企画段階より参加し、演説会の中に2項目の共通質問を提案させていただきました。(P2 町政への思いを聞く会報告参照)

演説会では、立候補表明者二人に大変力が入った熱弁をふるっていただきました。選挙結果は、周知のとおり現職を破り新人の花輪さんが当選。新町長誕生となりました。まちネット寄居では、新町長への期待とともに私たちが現在感じていることを伝えていきたいと思えます。

### 住民参加の協働と共助とは別物

26日に花輪新町長が話された「行政と町民との協働、住民参加について」のお考えから、基本的な差意を感じた点を述べさせていただきます。

住民の声を反映する方法として、従来の議員、区長、区の役員、民生委員といった既存の組織を十分に生かして行くことを挙げられ、住民の声をこれらの役職にある人た

ちが吸い上げて行政に反映させていくことが基本と話されていました。もちろんこれらの役割は大切なことと認識はしています。しかしこの既存の組織機能は、多様化している町民の生活や価値観に対応しきれていない現状となっています。これは行政の大きな課題といえます。選挙で選ばれた議員は確かに私たちの代表として、町民の声を反映させていくことを一義としていますが、自分の後ろ盾となっている後援会の代弁者となっている事も指摘されています。さらに町民の代表とはいえず、私たちは白紙委任しているわけではありません。これはもちろん町長においても同じです。今回の町長選挙でもいえることですが、有権者2万9千人余りの中で、新町長を支持したのは、9,185人。2万人弱の人たちは支持したわけではありません。もちろん、棄権者を容認しているわけではありません。しかし、この声なき有権者たちをどうとらえるかが、町長の政治的センスだと思います。この数字から言えることは、明らかに「長、議会」はすべての町民の代表はできなくなっていることです。行政だけですべてを負える状況ではありません。花輪さんが力説された

「日本一の共助の町づくり」はほんとうにすばらしいことです。共助、相互扶助は私たちが安心して暮らしていくためのまさに基盤となることです。しかしそれと私たちが目指す協働、住民参加は別物です。

### 協働から活気あるまちづくりへ

国の財政が危ぶまれている中、地方自治体の地域自治の役割はとでも重要となっています。私たちは、町民ができることは自らの責任と権限で行い、私たちにできないことは税金を使って行政がやっていく。それらを伸ばしていくために、NPO法人などの継続できる地域事業での地域貢献など、市民自治の力を伸ばしていくことが、豊かな地域自治へつながっていくと確信しています。

→次ページへ



自治体基本条例の策定、住民が直接意思表示できる住民投票など、住民の直接参加できる地方自治の流れが加速しています。私たちはお任せだけではない、町民主権を確立するためには、請願、陳情だけではない、日常的な町民の直接参加が必要と考えます。町民参加と町長、議会との緊張関係があつてこそ町政（町長・議会）は「全町民の利益」に立脚できると思います。誰のための町政なのか、誰のための政策なのか、議会なのか。私たちは、たくさんの議論を重ねながら、官、民、企業が直面する様々な問題、課題を共に解決してゆくことが、協働の基本と捉えています。しっかり新町政へ目を向け、積極的なまちづくりへ参画をしていき、少しでも市民自治の領域を広げていきたいと思ひます。

大北秀子

## 2014年 町政への思いを聞く会

7月26日 男衾コミセンにて  
参加者 約170名

町民にとって、最も生活に直結する寄居町長選に際し、立候補表明者のそれぞれの主張を直接公正公平に聞くことで、有権者の選考の一助となることを目的にまちネットも参画した実行委員会で企画しました。

180席用意した座席はほぼ埋まり、数えるほどの空席状態でした。立候補表明者の島田さん（現職）、花輪さん（新人）のお二人には下記の共通の質問事項にこたえていただくほかは、自由に思いのたけを話していただきました。会場内は、熱気に包まれ、聴衆はしっかりと聞き入っていました。演説会は、無事、トラブルもなく終了。  
共通の質問事項

(1) これからの寄居町について  
・行政と町民との協働、住民参加についてのお考えをお話してください。

(2) 寄居町の問題、課題について3項目まで上げて、その解決策についてお話しください。



も変わらないと思うのか、全くの無関心なのか、いずれにせよ身近な地方議会にあつて、危機的な状況と感じざるをえません。私たちの暮らしは政治と直結しています。お任せからは民主主義は育っていきません。より良い地域社会を作っていくための、初めの一步の意思表示をしていきませんか。



お一人30分以内の持ち時間でしたが、かなりの内容をお聞きすることができました。会場内からの声として、「このような中立の演説会だと参加しやすい。個人の演説会は参加することで、すぐ支持者の烙印を押されてしまうのでいやだ」といった声が聞かれました。こういった、町民主体の積極的な企画が主だった地域でもっと開催できればと痛感します。また、今回の企画に賛同の意思表示として、場内でカンパを呼び掛けたところ、21,182円寄せられました。総支出11,017円を差し引き、10,165円の残金は社会福祉協議会へ寄付させていただきました。詳細はまちネット寄居のホームページに掲載してあります。

今回の選挙の投票率は、51.87% 過去最低の53.44%をさらに下回り、14,000人以上の有権者が棄権となりました。理由はそれぞれあるとは思いますが、税金だけ支払い、あとはご自由にどうぞ、なのか、私一人ぐらい行かなくても、あるいは投票しても何



## 選挙運動ってなに？

今回の町長選に際して、地区選出の議員と立候補予定者が自宅を訪れた、という経験をされた方は多いと思います。議員の選挙の際も戸別訪問はよくあることで、「みんなやっているってことは違反じゃないんだろなあ」「でも、戸別訪問って選挙違反のはず」と、困惑しました。また、早い時期から、政党の広報車が、立候補予定者の名前を連呼して回っていました。それで、寄居町のHPから、選挙管理委員会宛てに問い合わせしてみました。すぐに、

選管から電話がきて、「投票依頼なら違反になる。警察に言ってください」みたいな話でした。政党の広報車に関しては言及なかったですが、そのあと、男衾地区にはもうまわって来なくなりましたので、本当は、まずかったのかもしれませんが。

## 調べてみました

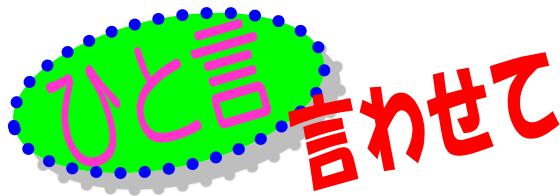
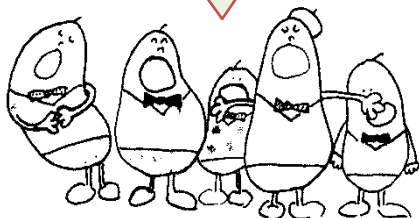
原稿を書くために調べたところ、選挙期間前の「後援会活動」は違反ではないそうです。公職選挙法では、「事前運動(告・公示前に選挙運動をすること)」と「戸別訪問(投票依頼を目的にした訪問活動)」は禁じられていますが、「後援会活動」(後援会への加入依頼とか、運動員の募集、集会のお知らせなどなど)は、憲法で認められた「政治活動」なんだそうです。

それに対して、違反となる「選挙運動」は、特定の選挙で、特定の候補者を当選させるために、有権者に働きかける(1票入れてくれ)すべての行為、ということです。

選挙期間前には、「〇〇に入れろ」なんてことは、言うてはいけないことなんです。ただ「よろしくお祈りします」ならいいのかな。自分たちが、当選してほしいって思える候補者を応援するときのためにも、選挙管理委員会には、事前にわかりやすく、事例を挙げて、町民に広く知らしめてほしいと思います。

(伊藤泰子)

よろしくおねがい  
しま〜す



## 寄居町町長選挙を 終えて

### 「説明と納得のまちづくり」に期待して

今回の寄居町長選は、ほとんど盛り上がりがないまま終わってしまったように思うのは私だけだろうか。結果は、4年前にこれまでの流れを変えようと誕生した島田町政が、一期という短命で終焉を迎え、それ以前の流れをくむ花輪町政の誕生となる。今回の選挙では、4年前に現職の島田町長を押した町議会議員の方たちも含めて、定数16人中の14人までの町議会議員の方たちが反島田となり、花輪陣営につく形となった。

では3年半を振り返って、島田町政の実績はどうだったのだろう。デマンドタクシーの実施や、水道料金の値下げ、中学生までの医療費の無料化、地域支えあい活動の推進、中心市街地の活性化計画、男衾駅の自由通路と東西駅前広場等の実現、お祭りやイベントへの活性化支援、農産物加工センター「里の駅アグリ館」の開設、NPO法人「観光クリエイション」、NPO法人「農業活性化協議会」の設置等々、3年余りの間に色々の新しい試みを進めてきた。それぞれの事業の個別評価は各人の考え等にもよると思うが、現実にくつつかの試みがなされ、動き出したことは事実である。ところが、そうした新しく動き出した事業が、これからどう軌道に乗るか楽しみでもあった二期目の島田町政は潰れてしまった。

そして、その現職の島田町政の実績を越えて、それ以上の期待をも

って迎えられたのが花輪利一郎氏ということである。花輪氏は「見ます・聴きます・話します 説明と納得のまちづくり」をスローガンに掲げ、「町政をより良い方向にむけ舵とりし、寄居町のしっかりとした土台を創ります。」という。ただ、花輪氏が考える今の寄居町にはしっかりとした土台が無いというのはどのようなことなのか。花輪氏の考えるしっかりとした土台とはどのようなことなのだろう。花輪氏には、過去の町政では築いてこれなかったという土台を、ぜひ創って、私たち町民にも解りやすく示してほしい。それと、花輪氏は当初から決めて、自分は寄居町の土台をつくって、次の町長に寄居町の発展は託そうということなのだろうか。そんな「土台づくり」だけの様な控えめなことを言わないで、花輪氏にも寄居町の発展に頑張してほしい。何しろ、花輪氏が当初から言い続けている、その「説明と納得のまちづくり」に私は大いに期待している。誰もが住みやすいより良い寄居町をつくるために、町民の抱える問題や思いを「見て、聴いて、話し合っ、説明して、町民が納得するまちづくり」を町民と協力して実行してほしい。それには、町民の積極的なまちづくりへの参画が重要であり、町民自身の行動の在り方が「まちづくり」の力となる。

(権田 功)

## 孫を抱きながら思う

# 私たち世代は何が残せ なにを伝えたいのか



孫が5人いる。4対1、男が絶対多数を独占している。8ヶ月前、歓喜に包まれて誕生した紅一点を私は、絶滅種の生き物みたいに大事、大事に、乱暴な男子たちから守っている。

この盆休み、真っ白い肌をピンク色の服に包まれた紅一点を抱き、猛暑に真っ黒く焼いた坊主たちと遊びながら思った。

この子たちは、私たちが生きてきた社会制度とは異なる制度の中で、働き、伴侶を得、家族を持つことになるのだろうか、と。今の年金制度はじめ、社会保障制度はどのように変わり、それが人々の幸せを創出する制度になるのだろうか。坊主たちのその先には、私たちにはなかった徴兵制度が待っているかもしれない。

私はこれまでの65年間、現憲法の元で自己判断や自己選択や、自己の夢の実現を目指す暮らしを営んできた。この憲法に何の不具合もなく、お仕着せでもなく大事にしたい。でも理屈をこねて、修辞に包み、この憲法を変えようとする勢力が増殖する。どうも過去に戻したいらしい。経済成長を最優先し、強い国に回帰する施策を打ち出し続ける政府。政治献金を復活させる経済界。間もなく稼働復帰が実現しそうな原発。詰め込み教育に逆戻りの学校教育。取り調べの可視化に消極的な法曹界。そしてこの寄居町の大人たちは、先の町長選で70歳になる首長を選んだ。

前に少し進んだかと思えば、二歩も三歩も後ずさりしてしまう。進んだ地点からさらに、進めない。何のために、誰のために、

例えば、この制度を進めたらいいのかわからない。そんな事めんどい、任せる。それより経済の最大化を目指す方に価値軸を置く。



喜々と水遊びする坊主たちに、何が残せるのか。彼らの進む先に戦場があってはならない。だって、経済の最大化で得た資産を守るために戦争を起こしたのではなかったか。

平和を唱え、一方で、押し付けられた現憲法だ、二つの思考を使い分ける政治家。軍隊は必要、戦争映画はカッコいい、と言いつつ戦争はいや、行かない、という若者。議会と執行の関係を都合よく解釈する寄居町議員たち。対立し緊張し、議論を重ねながら多様性を認め問題解決を図る、その民主的な基本作業の大事さを身を持って伝えてきたのか、俺たちは。何かあった時、後に戻りその居心地にあぐらをかいてきたのかもしれないぞ、俺たちは。紅一点の孫の温かいホッペに頬ずりしながらつぶやき、そしてこんな言葉を思い出した。

「先進国の中で、この先の将来、最も困難な道を歩む国は日本である。なぜなら、先進国の中で、最もイノベーション（この場合は改革、変革）が苦手な国だからである。」

思想家ドラッカーは2005年亡くなっている。その2年前、日本に向けたメッセージがそれである。

(北 勝)

# ありがとう

## 木曜野菜市

# 祝! 1周年

お陰様で、毎週楽しみにしている木曜野菜市が、たくさんの方々に支えられながら、5月で1周年を迎えました。新鮮で、おいしい有機野菜たち、生みたく平飼いの鶏卵は毎週大好評です。今年から平飼いの鶏卵を、皆農塾出身の大島さんが提供してくださっています。黄身がレモンイエローの濃密な卵をまずは卵かけごはん。皆様、本当にありがとうございます。お陰様でまちネットの活動資金が少しずつプールされてきました。今後の活動に活かして行きたいと思います。

8月23日に野菜を提供してくださっている方々をお呼びして、心ばかりの感謝会を開催しました。支援者のご厚意にこたえられるネットの活動を、と心が引き締まる思いです。ありがとう!!



# 何とも爽快 家庭菜園講座だより

晴れても雨でも  
畑は呼んでいる

家庭菜園講座ただいま  
登録者 23 名

4月20日から月1回で開催されている家庭菜園講座も、8月で5回目となりました。

5回の内容は大変濃密です。毎回旬の野菜を収穫してのお土産は、一番のお楽しみ。この間の講座を簡単に振り返ってみます。

## 第1回 4月20日

- ・キャベツ、レタス苗の定植
- ・種まき（大根、カブ、小松菜、）
- ・トマト、ピーマン、カボチャ苗の定植

寒冷紗、マルチのかけ方など、説明を聞きながら実践

## 第2回 5月18日

- ・4月の野菜の発育状況の観察
- ・トマトの整枝、脇芽摘み、支柱の立て方
- ・いろいろな土の発芽実験（もみ殻粉碎、のこくず、鶏糞堆肥、何も入れない土）
- ・いろいろな薬物の即席サラダの試食



## 第3回 6月22日

（雨のため農場納屋にて開催）

- ・堆肥についての説明（鶏糞堆肥、腐葉土堆肥、生ごみ堆肥（ダンボールコンポストの説明）と使い方）
- ・農業用資材について
- ・農具について使い方、鎌の研ぎ方
- ・ニンジン、大根、キャベツのお土産

## 第4回 7月20日

- ・果菜類の手当て、整枝と蔓の処理
- ・空芯菜のさし芽
- ・トマトの食味比べ（固定種、F1種）
- ・秋野菜の蒔き方（セルトレーとミニポット）
- ・トマト、ピーマン、いんげんのお土産

## 第5回 8月24日

- ・夏野菜の収穫（空芯菜、蔓むらさき、モロヘイヤ、甘トウガラシ）お土産
- ・種まき後の観察（にんじん）
- ・肥料の施し方
- ・鶏舎にて鶏糞の収集と鶏卵採集
- ・果菜類の保存法としてトマトソース、きゅうりの佃煮試食
- ・モグラ対策のペットボトルを利用した風車の作り方（堀さん）

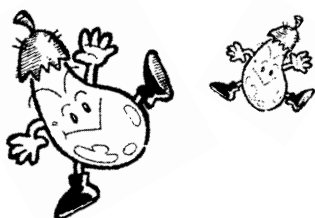


毎回盛りだくさんの内容で、整理するのが大変でした。豊富な体



験に基づいたお話は中味が濃く、次々と展開していき、毎回あっという間の2時間です。受講生の方々も回を重ねる中で顔なじみとなり、ここでの情報交換など、より楽しい関係が広がってきました。野菜作りは、毎年条件が異なるため、同じようにうまく行くとは限りません。その年その年で豊作となるもの、うまく育たないもの色々ですが、毎年新しい発見があります。ちょっとしたヒントに救われることも多く、この講座で学んだ畑の仕事は、きっと参加者の実践に役立っていると思います。まだまだ続きます。秋野菜、冬野菜、秋の収穫祭…。毎月楽しみな家庭菜園講座です。

報告：事務局



# お知らせ

## 松葉調査

ご参加ください

環境整備センター敷地内の松葉を使ったダイオキシン類、重金属類の調査です。

今年は、松葉による大気調査実行委員会の登録で生活クラブ埼玉の組合員による「市民事業寄付制度」に応募。15万円の寄付を募りました。8月23日締め切りで17万円以上の寄付が集まり、今年度の調査が実現となりました。

●9月14日：現地見と草刈

9:00～

●10月12日：松葉採取

9:00～

現地集合：環境整備センター事務所前



## ネット会員募集中 いつでもどうぞ！

毎日の暮らしの中で、感じている不安、困っていることから出発。

自分たちの足元から見つめ、話していきましょう。ぜひ、お仲間になってください。

問合せ・・・大北（582 - 4073）



●どうしても、もうひとつこと言わせてくれ、というたつての希望で編集後記に変えて、再度、一言二言、言いたい放題を急ぎよ掲載となりました。

## 限界が近いぞ！ 活気がない寄居町

「通るたびにさびれる感じですね」。会計士の友人が言う。彼は県北部を仕事で行き交う。中でも寄居町の活気のなさが気になるとも言う。駅前スーパー閉店は、ボディブローのように町の活気を失わせているが、慣れが不便さを隠したのか、その対応策が町民には見えてこない。商工会や地区選出議員らの町活性のシンポジウムも衰退の勢いを止めるだけの策は聞こえてこない。

新町長が選挙前に寄居会館で「かれこれ60年に及ぶ課題だ」と指摘したが、杳として活気は見えてこない。これはいったいどうしたことか。何でもそうだが、ある事象は限界点を超えたとき、その修復は難しく、ヒト・モノ・カネ・をつぎ込む度合いは（費用は）べらぼうに高くなる。寄居町はその限界点に近い、と前出の会計士は言うのだ。市街地の住民は「地区の有力者の利害関係のぶつかり合い」が、活性化策を具体化させない要因の一つ、と冷ややか。もう一つ「予算ありき」の官僚的な姿勢、予算が付かなければ何もできない構造的な地域体質も見逃せないだろう。

その意味で、駅前スーパーの閉店は、街中再生の好機に転換できるのではないかと。町民資本による町民のためのスーパー“町民経営店”が可能なのではないか。

町がビルの売却を地権者に求める。町民が、例えば NPO 法人など運営母体を組織し貸与を受ける。経営は町民共同出資が基本。もちろ

ん詳細な仕組み設計などは専門家の知恵をもらう。専門家集団がボランティアで指導、支援活動する「プロボノ」の活用も有効だ。

町民が経営する店舗は①地元有機農業生産者販売拠点が主力品（この特徴づけで最寄品商店街との共存が可能）②加工品の開発と販売拠点（アグリ館のパフォーマンスを横展開が可能）③地域生産・加工技術の再生と開発（地域に埋もれ、消滅しかける手づくり技術の再生）④雇用創出（シルバーではない一般の高齢者、障がい者の参加）などが思いつく。

もちろん素人考えである。しかしこうした視点が、まちづくりに不可欠だと思う。こう言った町民参加の事業・ビジネスモデルは先進自治体では実現化している。

ロンドンオリンピックの諸会場施設がいま、解体縮小されている。それらは解体・縮小を前提に設計建設されていて、解体された資材は次のリオデジャネイロで使われるそうだ。この視点である。

見回すと暮らす地区には、うどんを打たせると名人肌、味噌作りは脱帽など、自家製特産生産技術が埋もれている。でも、消滅しようとしている。地域の活力が失っていく。そうした地域力が引き継がれ、今風に再生し商売になるモデルづくりをマネジメントするのが、商工会や行政だと思うのだが。（久勝）

